

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3142323号
(U3142323)

(45) 発行日 平成20年6月12日 (2008. 6. 12)

(24) 登録日 平成20年5月21日 (2008. 5. 21)

(51) Int. Cl.

B 4 2 D 15/00 (2006. 01)

F 1

B 4 2 D 15/00 3 1 1 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-896 (U2008-896)
(22) 出願日 平成20年2月20日 (2008. 2. 20)(73) 実用新案権者 504096022
櫻井 淳史
東京都港区南青山4-19-6-606
(74) 代理人 100097559
弁理士 水野 浩司
(72) 考案者 櫻井 淳史
東京都港区赤坂7-5-47 シトマジヤ
パン株式会社内

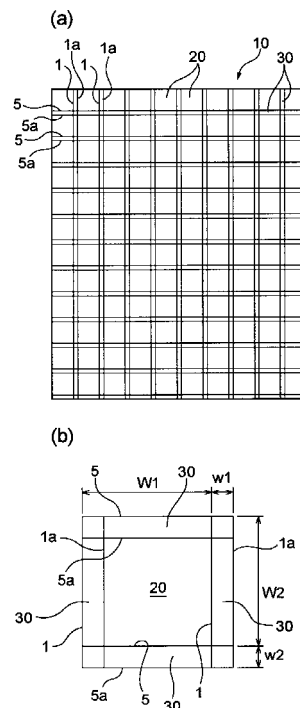
(54) 【考案の名称】 学習用紙

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 国語や算数等、文字や数字を記載しながら学習を行う際、バランス良く数字や文字を記載させることが可能な学習用紙を提供する。

【解決手段】 学習用紙は、多数の縦線1と多数の横5線によってマス目状の野線10が記載された構成において、各縦線1、及び各横線5に隣接して、各マス目の一辺の1/4以下となる補助縦線1a、及び補助横線5aを記載したことを特徴とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

多数の縦線と多数の横線によってマス目状の罫線が記載された学習用紙であって、前記各縦線、及び各横線に隣接して、各マス目の一辺の $1/4$ 以下となる補助縦線、及び補助横線を記載したことを特徴とする学習用紙。

【請求項 2】

前記補助縦線、及び補助横線は、各マス目の一辺の $1/7$ 以上となるように記載されていることを特徴とする学習用紙。

【請求項 3】

前記補助縦線及び補助横線によって形成される各マス目の上下、左右の補助マスが全て等しいことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の学習用紙。 10

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、算数や国語などの学習をする際に用いられる学習用紙に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、児童が学習する際に用いる学習用紙として、例えば、ショウワノート株式会社が販売する学習帳に綴じられたものが知られている。この学習帳に綴じられている学習用紙は、以下の非特許文献 1 や特許文献 1 で知られているように、数字や漢字、ひらがな、カタカナを整列して記載できるように、碁盤目状にマス目を形成したものとなっている。 20

【0003】

このようなマス目は、それぞれのマス目内に、1 つの文字や数字を記入させることで、文字の大きさを統一させ、また、長い文章や計算式（縦書きの筆算、横書きの筆算）等を書く際、全体のバランスが取れるように、文字を記載する際の指標としての機能を備えている。

【非特許文献 1】 URL; www.showa-note.co.jp/（商品カタログ）

【特許文献 1】 実用新案登録第 3085479 号

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】 30

【0004】

しかしながら、単に碁盤目状にマス目を記載したものでは、児童に対してマス目内に目一杯の文字を記入するように学習指導すると、上下、左右の文字間が接近しすぎたり、くっついてしまい、読み難い文章になることがある。また、算数で横書きの計算や縦書きの計算（筆算）を学習指導すると、児童によっては、マス目内に書く数字の大きさがバラバラになってしまい、これにより、隣の行の数字を足したり、引いたりする等の計算誤りが生じることがある。

【0005】

このような問題が生じるのは、文字や数字を記載する際、大きさを揃えなかったり、文字間隔を適度にバランス良く取らないことに起因するものである。 40

【0006】

本考案は、上記した事情に基づいて成されたものであり、国語や算数等、文字や数字を記載しながら学習を行う際、バランス良く数字や文字を記載させることが可能な学習用紙を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

上記した目的を達成するために、請求項 1 に係る考案は、多数の縦線と多数の横線によってマス目状の罫線が記載された学習用紙であって、前記各縦線、及び各横線に隣接して、各マス目の一辺の $1/4$ 以下となる補助縦線、及び補助横線を記載したことを特徴とする。 50

【0008】

このような構成の学習用紙によれば、各マス目の上下、左右方向に、一定間隔の隙間（補助マス）が形成されるため、各マス目に、目一杯に文字（数字）を記入しても、隣接しあう文字や数字の間に適度な空間が生じるため、バランス良い文章や数字を記載することが可能となる。

【0009】

また、縦方向や横方向に筆算をする際、方向性を揃えさせることができ、更には、一定間隔の隙間（補助マス）内に繰り上がりの数字を記入させたり、分数の線や割り算の記号を記入させる等、計算の誤りを生じ難くさせることが可能となる。

【0010】

また、請求項2にあるように、前記補助縦線、及び補助横線は、各マス目の一辺の $1/7$ 以上となるように記載されていることが好ましい。

【0011】

このように構成することで、補助マスの大きさが小さくなり過ぎることがなくなり、補助マスを有効に利用することが可能となる。

【0012】

また、請求項3にあるように、上記した補助縦線及び補助横線によって形成される各マス目の上下、左右の補助マスは全て等しいことが好ましい。

【0013】

このように上下、左右の補助マスを等しくしておくことで、隣接する文字の上下、左右の隙間を等しくさせることができ、全体バランスの良い文章を記載させることが可能となる。

【考案の効果】

【0014】

本考案によれば、文字や数字を記載しながら学習を行う際、バランス良く数字や文字を記載させることが可能な学習用紙が得られる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0015】

以下、本考案に係る学習用紙の一実施形態について説明する。

図1（a）は、例えば、ノートに綴られる1枚の用紙に、本考案に係るマス目状の罫線10を記載した学習用紙の一例を示す図である。

【0016】

この図に示すように、用紙の表面には、予め多数の縦線1，1…と多数の横線5，5…によって矩形のマス目状の罫線10が記載されている。この場合、縦線1と横線5によって形成されるマス目20は、正方形であっても良いし、長方形であっても良い。

【0017】

そして、各縦線1，1…、及び各横線5，5…と平行となるように、補助縦線1a，1a…、及び補助横線5a，5a…を、それぞれの縦線及び横線に隣接して記載しており、各マス目の上下、及び左右に、前記マス目20に対して補助となる補助マス30を設けるようにしている。

【0018】

この補助マス30は、縦線1と横線5によって形成されるマス目20に対し、その大きさをあまり大きくし過ぎると、本来の文字や数字を記載する上で邪魔になってしまうので、図1（b）に示すように、各マス目の幅をW1（横幅），及びW2（縦幅）とした場合、補助縦線及び補助横線によって規定される各幅w1（補助マスの横幅），及びw2（補助マスの縦幅）は、前記W1，W2の $1/4$ 以下、好ましくは $1/5$ 以下とされる。

【0019】

なお、補助マス30の大きさを、あまり小さくしすぎると、十分な文字間が取れず、かつ必要な文字や数字（後述する繰り上がりの数字等）が記載し難くなることから、前記比率は、 $1/7$ 以上にしておくことが好ましい。

10

20

30

40

50

【0020】

また、上記のように形成される補助マス30については、縦線1と横線5によって形成されるマス目20に対して、上下、左右全て等しくなるように、前記補助縦線1a及び補助横線5aを記載しておくことが好ましい。

【0021】

このように上下、左右の補助マス30を等しくしておくことで、本来のマス目20に記載される文字や数字に関し、隣接する文字の上下、左右の隙間を等しくさせることができ、全体バランスの良い文章等を記載させることが可能となる。

【0022】

図2は、上記のような補助マス30が記載された学習用紙を使用して、算数や国語の学習をする一例を示したものである。

10

【0023】

まず、学習者（児童）に対しては、縦線1と横線5によるマス目の中に、目一杯の文字や数字を記入すること、及び、それ以外の文字や記号等については、補助マス30を使用すること、を学習指導しておく。

【0024】

このように指導しておくことで、図(a)や(b)に示すように、足し算や掛け算などをする際、縦方向(X)及び横方向(Y)に数字を揃えさせることができ、また、補助マスを使って横棒Aを記載させることができるため、誤って隣の数字を足す等の計算ミスが生じることが抑制される。また、補助マスに、繰り上がりの数字Bを記入することができ、その位置もずれることがないため、計算ミスが生じることが抑制される。

20

【0025】

また、図(c)に示すように、文字（漢字、ひらがな、カタカナ）を記載する際、縦方向(X)及び横方向(Y)に文字を揃えさせることができることから、上下、左右に適度な間隔が生じ、文章全体のバランスを良くし、見やすい文章にすることができる。

【0026】

さらに、それ以外にも、図(d)や図(e)に示すように、補助マスを使って割り算の記号Cを記載させたり、分数の割り算記号Dを記載させることができ、これにより、数字配列を揃えさせることが容易となり、計算ミス等の発生を抑制し、文字や数字を記載する際のバランスを向上させることができる。

30

【0027】

以上、本考案によれば、文字や数字を記載しながら学習を行う際、バランス良く数字や文字を記載させることができ、学習効果が高められる学習用紙が得られるようになる。なお、上記した学習用紙は、ノートとして綴られていても良いし、1枚ずつ個別に使用できる構成であっても良い。

【図面の簡単な説明】

【0028】

【図1】(a)は、ノートに綴られる1枚の用紙に、本考案に係るマス目状の罫線を記載した学習用紙の一例を示す図、(b)は、マス目の拡大図。

【図2】(a)から(e)は、それぞれ、図1に示した罫線を使った学習例を示す図。

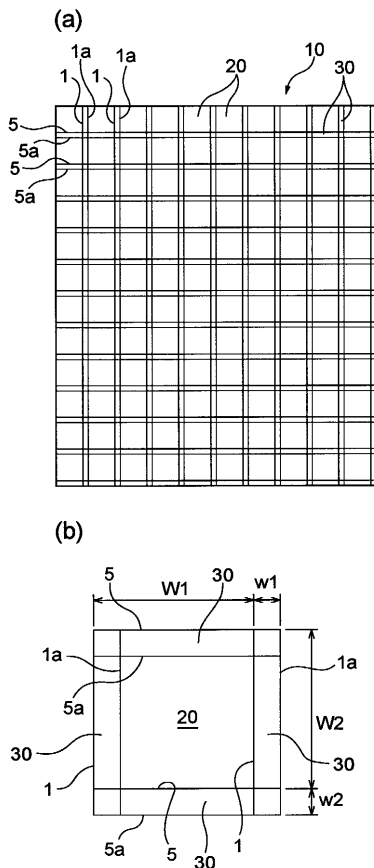
40

【符号の説明】

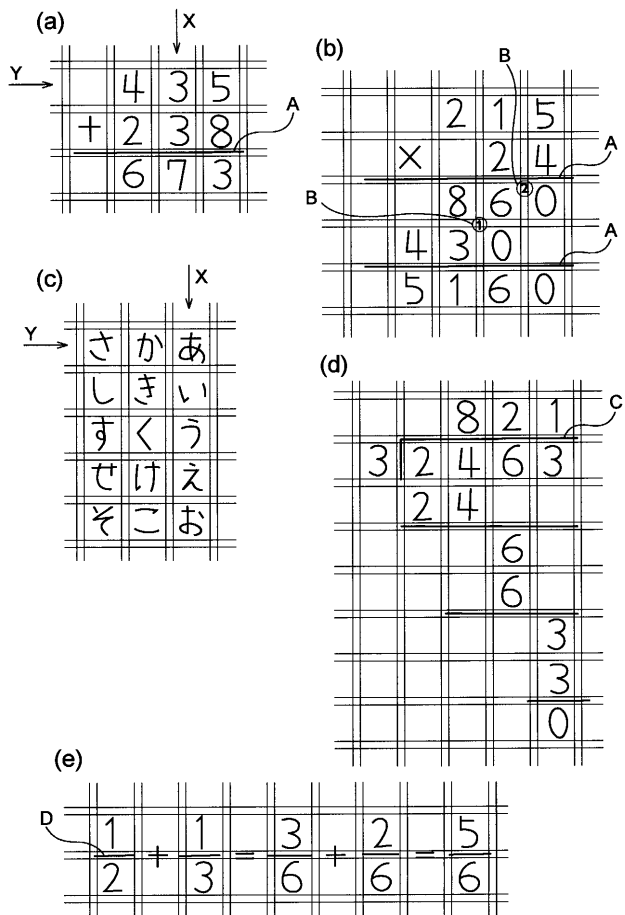
【0029】

- 1 縦線
- 1a 補助縦線
- 5 横線
- 5a 補助横線
- 10 罫線
- 20 マス目
- 30 補助マス

【図 1】



【図 2】



【手続補正書】

【提出日】平成20年4月2日(2008.4.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

多数の縦線と多数の横線によってマス目状の罫線が記載された学習用紙であって、
前記各縦線、及び各横線に、各マス目の一边の $1/4$ 以下の間隔で隣接して補助縦線、
及び補助横線を記載したことを特徴とする学習用紙。

【請求項 2】

前記補助縦線、及び補助横線は、各マス目の一边の $1/7$ 以上の間隔で隣接して記載さ
れていることを特徴とする請求項 1 に記載の学習用紙。

【請求項 3】

前記補助縦線及び補助横線によって形成される各マス目の上下、左右の補助マスが全て
等しいことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の学習用紙。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記した目的を達成するために、請求項 1 に係る考案は、多数の縦線と多数の横線によ

ってマス目状の罫線が記載された学習用紙であって、前記各縦線、及び各横線に、各マス目の一辺の1／4以下の間隔で隣接して補助縦線、及び補助横線を記載したことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、請求項2にあるように、前記補助縦線、及び補助横線は、各マス目の一辺の1／7以上の間隔で隣接して記載されていることが好ましい。